

バクテリア・糸状菌防除の有機銅系殺菌剤！！

きゅうりべと病

きゅうり斑点細菌病

きゅうりうどんこ病

メロンべと病



メロンうどんこ病

パセリ斑点病

パセリうどんこ病

ぶどう晩腐病



ヨネポン[®]乳剤



有効成分	/ニルフェノールスルホン酸銅 30%	
毒性	普通物	
魚毒性	B類	
危険物	第4類第二石油類	
有効期限	5年	
FRACコード	M1	
規格	100ml×60本入	500ml×20本入

特徴

- ① 銅イオンによる殺菌効果であるため、病原菌の薬剤耐性化が生じにくいです。細菌、糸状菌性病害に卓効があり、安定した効果を発揮する剤です。
- ② 銅の含有量が少ないため、銅による土壌障害の軽減にも繋がります。
- ③ 有効成分の一部が界面活性剤とよく似たものであるため、展着性が非常によく、作物及び菌体へよく付着します。
- ④ 溶液なので沈殿がなく、作物が汚れることなく綺麗に仕上がります。

適用病害の範囲及び使用方法

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ノニルフェノールスルホン酸銅を含む農薬の総使用回数	
稲	もみ枯細菌病・ばか苗病 いもち病・ごま葉枯病	20倍	-	浸種前	1回	10分間浸漬	1回	
	褐条病・苗立枯細菌病	20～30倍				24時間浸漬		
	ばか苗病・いもち病	50倍						
	褐条病・苗立枯細菌病	100倍						
	ごま葉枯病	50～100倍						
	もみ枯細菌病	50～200倍						
	もみ枯細菌病・褐条病 ばか苗病・苗立枯細菌病 いもち病・ごま葉枯病	7.5倍						乾燥種籾1kg当り 30～60ml 乾燥種籾1kg当り60ml
ばれいしょ	そうか病	50～100倍	-	植付前	1回	10秒間 種いも浸漬	5回以内 (種いもへの処理は1回以内・ 散布は4回以内)	
		25倍	種いも1kg当り15～30ml			種いも 吹き付け処理		
やまのいも	青かび病	50倍	-	-	-	瞬間～10分間 種いも浸漬	1回	
メロン	うどんこ病・べと病	500倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	
きゅうり	うどんこ病・べと病・斑点細菌病	500～800倍		収穫前日まで				
ズッキーニ	べと病	500倍		収穫14日前まで				3回以内
パセリ	うどんこ病・斑点病・軟腐病 アブラムシ類	700倍		収穫30日前まで				7回以内
こんにゃく	腐敗病・葉枯病	500倍		収穫直後				5回以内
桑	枝軟腐病 縮葉細菌病			100～200L/10a				-
ぶどう	晩腐病・黒とう病	100倍		200～700L/10a				萌芽前
ばら	うどんこ病	500倍	100～300L/10a	-	6回以内	6回以内		

使用上の注意事項

- 散布液調整後はなるべく早く使用してください。
- 石灰硫黄合剤、マシン油乳剤、ジチオカーバメート系薬剤との混用はさけてください。
- 夏季高温時には葉害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
- きゅうりに使用する場合は次の事項に注意してください。
 - 高温時の散布は、葉害が生じるおそれがあるのでさけてください。
 - 連続散布すると葉の周辺が黄化したり硬化したりすることがあるので過度の連用はさけてください。
- ばれいしょの種いも消毒に使用する場合、萌芽後や種いも切断後の処理は葉害を生じるおそれがあるので、萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。
- 桑に散布した場合は3日以上経過してから蚕に給葉してください。
- 稲に使用する場合、次の事項に注意してください。
 - 種子消毒は、浸種前に行なってください。
 - 本剤は界面活性系に付き、催芽機の水を循環中、泡立ちを起こす可能性があります。その際は、農業用消泡剤を使用する事で簡単に消泡することが出来ます。
 - 発芽不揃い等の葉害を生じるおそれがあるので消毒した種籾は乾燥せずに浸種してください。
 - 浸種処理の場合、籾と処理液の容量比は1:1以上とし、種籾はザラン網など粗目の袋を用い、液液処理時によくゆすってください。
 - 吹付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種籾に均一に附着させて乾燥してください。
 - 本剤の処理を行なった種籾を浸種する場合は、次の事項を守ってください。
 - 浴比は1:2とし、停滞水中で浸種してください。
 - 水の交換は原則として行わないでください。但し、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがある時は、静かに換水してください。
 - 河川・湖沼・ため池などでは浸種しないでください。
 - 発芽障害を生じるおそれがあるので以下の項目にご注意ください。
 - 薬液浸漬時間が所定時間以上に長くなること。
 - 薬液浸漬時および浸種時の液温が高くなること。
 - 本剤の処理により、初期生育遅延を認めることがありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
 - 本剤による消毒種子を播種する際、育苗床土は必ず土壤消毒を行ってください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時間、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に始めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

農薬希釈早見表 (農薬量 単位: 液・ml 粉・g)

希釈倍率	水の量 (ℓ)					
	10	20	50	100	500	1000
7.5倍	1333	2667	6667	13333	66667	133333
20倍	500	1000	2500	5000	25000	50000
30倍	333	667	1667	3333	16667	33333
50倍	200	400	1000	2000	10000	20000
100倍	100	200	500	1000	5000	10000
200倍	50	100	250	500	2500	5000
500倍	20	40	100	200	1000	2000
700倍	14.3	28.6	71.4	143	714	1429
800倍	12.5	25	62.5	125	625	1250

安全使用上の注意事項

- 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液及び液液調整時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。また浸漬処理液及び吹付け処理液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 - 原液は皮膚に対して強い刺激性があるので、散布液及び液液調整時には不浸透性手袋を着用して薬剤が皮膚に附着しないよう注意してください。附着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
 - 散布の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。また吹付け処理の際は、農業用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。
 - 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物に対する注意事項
- 水産動植物(甲殻類・藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。
 - 空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 貯蔵上の注意事項
- 火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管してください。